

〔女子準決勝〕

昭和学院中学校 (市川・浦安)	35	}	43	}	習志野市立第一中学校 (習志野)
			4-7 8-10 10-10 13-16		

【評】

昭和学院は17年連続、習志野一は5年ぶりの準決勝となった。昭和学院はオールコートマンツーマン、習志野一はハーフコートマンツーマンでスタートした。序盤は両チームとも一進一退の展開で、習志野一は#4坂口のドライブ、昭和学院も#4田中の3Pシュートなどで得点するが、流れをつかみ切れなかった。第2Qに入ると、習志野一が粘り強いディフェンスで流れをつかみ始め、#4坂口、#7関のドライブ、#5落合のリバウンドシュートなどで得点を重ねた。一方、昭和学院は#7大城の3P、#11小崎の速攻などで得点するものの、習志野一のディフェンスに対して、ドライブを成功させることができなかった。第3Qの入り、昭和学院は果敢にドライブを試み、#5藤原、#6月松が得点を重ねていく。それに対して、習志野一は#4坂口と#7関のスクリーンプレイを中心に攻撃し、最終Qを迎えた。第4Qに入り、昭和学院は#5藤原がスピードを生かしたドライブを中心に攻め、習志野一のディフェンスを崩しにかかる。一方、習志野一は堅いディフェンスを続け、オフェンスでは、#4坂口、#7関を中心に攻撃を組み立て、昭和学院の追撃を許さなかった。残り4分には#7関が流れを決定づける3Pシュートを決めた。終始、集中力を切らすことなく、ゲームをリードして進めた習志野一が勝利し、決勝に駒を進めた。

〔女子準決勝〕

市川市立第三中学校 (市川・浦安)	51	}	50	}	翔凜中学校 (君津)
			13-12 15-20 13-9 10-9		

【評】

序盤、翔凜は#25安田の高さを生かしたゴール下、#2岡田のドライブ、#1高橋の3Pなどで流れを作る。市川三は翔凜の激しいDFに攻めあぐねる時間が続くが、#9武藤のバスケットカウントを皮切りに#7和田が連続得点を重ね、残り3分逆転に成功し1Qを終える。第2Q、市川三は#9武藤、#10牧野のドライブによって得点を重ねる。対して翔凜は#23大砂がスティールから得点し、流れを渡さない。#2岡田の3Pも決まり、前半を翔凜4点リードで折り返す。後半に入り、翔凜は市川三の粘り強いDFに苦しみ得点できない時間が続く。#52高品のドライブ、#1高橋が3Pを決めるが、市川三の#8米澤、#9武藤らが果敢にOFリバウンドに飛び込み、ゴール下を沈める。残り3分、#4中西がコートに戻り一進一退が続いた。3Q終了間際、市川三#10牧野の得点で同点に追いつく。振り出しに戻った第4Q、市川三#11丸山の得点からスタート。#7和田のOFリバウンドからの得点や#10牧野のドライブが翔凜のファウルを誘い、フリースローも決まって流れを掴む。対し、翔凜は#1高橋がこの日4本目となる3Pを決め追い上げるも、市川三の堅い守りに阻まれ得点できない。激しい接戦の末、紙一重の差で市川三が勝利をもぎ取った。敗れはしたが、最後まで走り切った翔凜の選手にも拍手を送りたい。

〔女子決勝〕

習志野市立第一 中学校 (習志野)	50	}	52	}	市川市立第三 中学校 (市川・浦安)
			9-16 12-13 12-10 17-13		

【評】

習志野一はハーフコートマンツーマン、市川三はオールコートマンツーマンでスタート。1Q習志野一は、#4坂口の1ON1、ポストプレーを中心に得点を重ねる。市川三は、#7和田、#8米澤、#10牧野がドライブを中心に、得点を重ねる。2Q習志野一は、引き続き#4坂口を中心としたオフェンスを展開、ディフェンスの圧力を強め、速攻で得点。2点差に迫られたところで、たまたま市川三はタイムアウト、立て直しを図る。タイムアウト後、市川三中は#10牧野のリバウンドシュート、ドライブなどで得点し、前半を終える。3Q両チームともハーフコートマンツーマン。市川三は、#4中西のドライブや、オフェンスリバウンドからの#8米澤のバスケットカウントなどで得点し、主導権を握る。習志野一も#5落合のジャンプシュートやリバウンドシュートなどで、得点するがリズムを掴めない中、3Q終盤#11谷水の3Pやミドルシュートなどの連続得点で点数を詰め、3Qを終える。4Q市川三は#11丸山、#4中西などのカットインを中心に得点を重ねる。対する習志野一は、#4坂口のカットイン、ジャンプシュート、#7関、#11谷水による3連続3Pにより、残り3分ですぐに同点に追いつく。その後も一進一退の攻防が続く、残り30秒、市川三#7和田がリバウンドシュートを決めて、2点をリードする。その後、習志野一中は、タイムアウトをとり、逆転を狙ったシュートが惜しくもはずれ試合終了。決勝戦にふさわしい白熱したゲームであった。両チームの頑張りに拍手を送りたい。

〔男子準決勝〕

八千代松陰中学校 (八千代)	5 6	}	<table border="0" style="margin: 0 auto;"> <tr><td style="text-align: center;">2 0 - 1 1</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">4 - 2 5</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">9 - 1 9</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">2 3 - 9</td></tr> </table>	2 0 - 1 1	4 - 2 5	9 - 1 9	2 3 - 9	6 4	成田市立西中学校 (印旛)
2 0 - 1 1									
4 - 2 5									
9 - 1 9									
2 3 - 9									

【評】

スタートは両チーム共にハーフコートマンツーマン。八千代松陰は# 6 早坂のカットインからの得点や# 1 7 渡邊のインサイドで得点を重ねる。一方の成田西は# 4 諏訪のインサイドやミドルシュートで得点していく。第2Qは、成田西が# 4 諏訪のレイアップシュートや# 8 原の3Pなど、速攻からの展開で流れを引き寄せる。八千代松陰も# 1 8 小張のミドルシュートや# 1 6 大野のミドルシュートで得点を重ねる。前半は、2 4 対 3 6 で成田西が逆転に成功する。後半、成田西は足を生かし、速攻から# 6 小林や# 7 小林のレイアップシュートで得点を決め、徐々に点差を離していく。八千代松陰は、ディフェンスをオールコートマンツーマンに変え、連続カットからの得点で流れを掴みかけるが、成田西# 7 小林の3Pで3Qを締めくくった。最終Q、八千代松陰は、オールコートマンツーマンから# 1 7 渡邊や# 1 8 小張のインサイドで得点を詰めていくが、成田西の速攻と冷静な試合運びにより5 6 対 6 4 と成田西が勝利を収めた。敗れたものの、最後まで諦めず走りぬいた八千代松陰の選手たちの健闘を称えたい。

〔男子準決勝〕

船橋市立葛飾中学校 (船橋市)	7 5	}	<table border="0" style="margin: 0 auto;"> <tr><td style="text-align: center;">2 3 - 5</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">2 1 - 1 1</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">1 5 - 2 2</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">1 6 - 1 9</td></tr> </table>	2 3 - 5	2 1 - 1 1	1 5 - 2 2	1 6 - 1 9	5 7	市原市立ちはら台南中学校 (市原市)
2 3 - 5									
2 1 - 1 1									
1 5 - 2 2									
1 6 - 1 9									

【評】

両チームともシードから順当に勝ち上がって迎えた準決勝。第1Qは互いにハーフコートマンツーマンから始まる。序盤、葛飾中# 5 竹江、# 8 清水の3Pが決まり、流れをつかむ。一方ちはら台南中も# 8 名古屋を中心にオフェンスを展開し、バスケットカウントで応戦する。しかし、葛飾中がファストブレイク、3Pで得点を重ね、4 4 - 1 6 で試合を折り返す。後半に入り、ちはら台南中は# 5 加藤の鋭いドライブから# 7 米良、# 8 名古屋へのアシストパスが通り、得点を重ねる。その後も、ゴール下、ミドルのシュートが決まり、点差を縮めた。第4Qは、ちはら台南中# 4 の菊池のドライブや# 8 名古屋の3Pで葛飾中に追いつがる。しかし、葛飾中は# 1 8 松下のゴール下のシュートやドライブを中心に落ち着いて得点を重ねた。最後まで粘るちはら台南中を振り切り、前半のリードを守りきった葛飾中が決勝に駒を進めた。敗れはしたが、最後まで戦う姿勢を見せ、盛り返したちはら台南中に拍手を送りたい。

〔男子決勝〕

成田西中学校 (淡)	5 7	}	<table border="0" style="margin: 0 auto;"> <tr><td style="text-align: center;">1 5 - 1 6</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">5 - 2 0</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">7 - 1 3</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">3 0 - 2 4</td></tr> </table>	1 5 - 1 6	5 - 2 0	7 - 1 3	3 0 - 2 4	7 3	葛飾中学校 (濃)
1 5 - 1 6									
5 - 2 0									
7 - 1 3									
3 0 - 2 4									

【評】

令和最初の千葉県新人王者を決定する決勝戦。予選からこれまでの試合、成田西は# 4 諏訪を中心とした爆発的なオフェンス力で勝ち進んできた。対する葛飾は小柄ながら組織力と鍛えられたディフェンス力で対戦相手を圧倒し、決勝まで駒を進めてきた。この試合も第1Q、成田西は序盤からエース諏訪が得点を重ねていく。対する葛飾は# 5 竹江の3P、# 8 清水、# 1 0 赤川のドライブで食らいつき、一進一退の攻防が続いた。第2Q、葛飾のディフェンス力が本領を発揮し始める。成田西# 4 諏訪へのアシストを組織力で封じ込みインターセプト。速い展開から# 5 竹江の連続3P、# 1 1 坂本の3Pで得点。また# 7 斎藤、# 1 8 松下の個人技で成田西を引き離しにかかると。前半は、3 6 対 2 0 で葛飾がリードして折り返した。後半3Q序盤はお互いに守り合いが続いたが、攻めあぐむ成田西に対し、葛飾はリバウンド、スティールからの速攻で立て続けに得点する。4Q成田西は足を生かし、速攻から速い展開で得点を重ね、点差を縮めるが、すかさず葛飾が反撃。# 5 竹江の外角、速攻からの得点で追撃を許さない。終盤、成田西はオールコートディフェンスからの速攻、# 4 諏訪がオフェンスリバウンドから得点するなど意地を見せ最後の力を振り絞るが万事休す。終始、組織力・総合力で成田西を上回った葛飾が令和初の千葉県新人大会の覇者となった。